

鴨川河川整備計画検討委員会 第2回資料 (課題整理と治水の基本的考え方)



平成20年8月8日

京都府建設交通部河川課・京都土木事務所

目次

1.	鴨川の課題や意見について	1
2.	河川整備の基本理念と基本的考え方（案）	3
3.	治水の現状と課題	4
4.	洪水による災害の発生防止または軽減 （整備計画目標）	6
5.	洪水による災害の発生防止または軽減 （河川の維持（中州の取扱い）） ..	9
	参考1）中州の変化による水位への影響	10
	参考2）鴨川流域における土砂生産 （砂防堰堤等の整備状況）	11
6.	利水の課題（利水）、環境の課題（水質）	12
7.	環境の課題（河川環境）	13
8.	環境の課題（景観）	14
9.	環境の課題（河川空間利用）	15
	参考1）鴨川下流域で進む沿川まちづくりのイメージ ..	17



納涼床



花の回廊



賀茂大橋上流の飛び石

1. 鴨川の課題や意見について

第1回委員会(6月13日)で示した課題

事務局から示した課題

- (治水)
- 現況の流下能力は、まだまだ低い
 - 大きな洪水がいつ発生してもおかしくない
 - 京都市街は高度に都市化し、水害に対して脆弱
 - 住民の水害に対する意識が低下している
- (流水の正常な維持)
- 長期的傾向として、河川の流量は減少傾向にある
- (河川環境)
- 合流式下水道の吐口があり、下水管内にたまっていた汚濁物が雨水とともに放流されることが懸念される
 - 上流部の川沿いに産業廃棄物中間処分場等が点在
 - 中流部などでは、景観を阻害する要因がある
 - 川の危険性認識低下、利用者の安全確保対策
 - 様々な迷惑行為が発生
 - 五条より下流は、利用者が激減、また不法占用、不法投棄、落書き等の大規模なものがみられる

委員から戴いた主な意見

- 中流部は満流では、1000m/s程度の洪水も流れるとあるが、護岸が低いところもあり、安全であると言えない、溢水対策などの対策が必要では
- 川側が街の表側になるような回廊整備ができないか
- まちづくりとセットにして鴨川を考えるべき、周辺でどういったまちづくりが現状で行われているかということをもう少し知りたい
- セアカゴケグモなどの害虫や不快虫に関する注意喚起も必要ではないか

これまでの要望

- 中州は見苦しく、治水上も不安であり、除去して欲しい
- 五条大橋付近の右岸側高水敷きは防犯上設置してもらっては困る
- 河川敷に夜間照明を設置して欲しい

下流現地調査(6月28日)での主な意見

- (景観、河川空間利用)
- 不法投棄など、下流には今まで持っていた鴨川のイメージがない
 - 整備されているところも殺風景、人工的な雰囲気、植栽を考えた方がよい
 - 新しい橋の橋脚は、味がない
 - 勧進橋から竹田橋付近の直線区間は、桜並木が似合う
 - 人が集まる仕掛け(ジョギングロードの整備など)を考えることが必要
- (管理)
- 管理されていないため、荒れた感じがする、ゴミが多い
 - スーパー堤防として植樹帯や遊歩道を整備してはどうか
 - 交流拠点が良い、管理事務所が必要
 - 不法占用の対策に、訴訟などが必要で時間や手間がかかることを知った
 - 歩行者と自転車とのすみわけが必要
- (治水)
- 現地を歩くことで、河幅が大きく変化し流下能力が低い箇所など現状が良く理解できた
- (中州)
- 中州はとるべきだ
 - 中州は生物の生息場所であり残すべき、中州がある方が自然的、ないことが不自然

委員会傍聴者等の整備計画に対する意見

- (中州)
- 中州に生えている雑草が美しいか疑問
 - 川の中に草が繁茂しているのは見苦しい、中州の撤去に一票
 - 中州は生物にとって良好な環境となっている、ただし、水がよどむような箇所では適切に管理してほしい
 - ゴミが引っ掛かり見苦しいなどの声もあるが、京都から出たゴミを京都で処理してくれと言っているのではないかと、適度な管理を期待する
- (その他)
- 五条大橋の橋名版がないので付けて欲しい

1. 鴨川の課題や意見について（府民会議）

鴨川府民会議～議題項目～

【】内は提案人数

1. 自然生態系【5人】

- ・稚鮎保護のためのカワウ対策ロープと野鳥保護について（ロープはやむを得ないが目立つロープをはって野鳥保護を図る等）【1人】
- ・鳥類の餌付け問題【3人】
- ・鳶の増加によるゆりかもめ保護の必要性【1人】
- ・照明を一定時期暗くするなどの工夫をしてホテルの生息環境を改善するなど【1人】
- ・川の内外の外来種について【1人】
- ・鴨川の生態系の保全策について【1人】

2. 鴨川河川整備計画【2人】

- ・五条～下流域の整備計画【1人】
- ・河川敷の整備方針について【1人】

3. 中州管理【5人】

- ・本流の中州、寄り州流域によって検討、ゴミの蓄積など【4人】
- ・中州、寄り州問題 みそそぎ川の御池～下流～五条は撤去【1人】
- ・生態系保全のための中州維持と治水問題等の中州除去の対立問題【2人】

4. 河川環境【6人】

- ・都市河川として増水時の安全管理対策情報を府民に見える環境（鴨川河川に来られている方に注意を促す対策の検討）【1人】
- ・鴨川上流域の山の保全のための遊具への廃材利用【1人】
- ・鴨川に流入する農業用水や下水等の水質等各流入口下流域で京都市と協調して定期的に調査（6ヶ月に1回程度）【1人】
- ・堰堤が鴨川にとって多すぎて水質の悪化を招いている【1人】
- ・下水のオーバーフローによる水質汚染【1人】
- ・水質検査の方法の改善（BODと簡易調査法の併用）【1人】
- ・鴨川記念植樹エリアを流域ごとに設置（鴨川基金）【1人】
- ・さくらの保護・育成について【1人】
- ・鴨川が残そうとする「美しさ」を明確にする（山紫水明など）【1人】
- ・鴨川上流域における河川環境の復元について【1人】

- ・流域住民団体又は個人による環境等の維持管理（鴨川流域ネットワークの構築等）【1人】
- ・鴨川堤の保全について（自然のままの温かい雰囲気ができるだけ残せるように整備してほしい）【1人】

5. 河川の利用【8人】

- ・御池～五条の河川の公園化【1人】
- ・公衆トイレの適正数と適正間隔【1人】
- ・自転車利用者増加に伴う自転車道の設置について【1人】
- ・花の回廊に水辺としての要素を加える（護岸下の寄州沿いに菖蒲・かきつばた等を配する）【1人】
- ・行事を行える場所として鴨川（公園）を演出する（野外吹奏楽団を招く、川の中を歩く「川歩き」など）【2人】
- ・バーベキュー禁止区域の拡大【1人】
- ・サッカーやアメフト等の周りに危害を及ぼす危険性の高い利用方法の禁止【1人】
- ・飛び石の橋の設置箇所を増やす【1人】
- ・ゴミ放置の問題について【1人】
- ・北大路～葵橋左岸の整備（境界線の明示）【1人】
- ・鴨川公園等のゴミ箱設置問題【2人】

6. 魅力の発信【5人】

- ・鴨川文化・歴史資料館（既存の府の施設を活用）【1人】
- ・歴史等の高札の設置【1人】
- ・鴨川に関するイベントの新設について（鴨川クリーン・キャンペーン、夏祭り大会等）
- ・四季折々の写真コンテスト、子どもたちによる「絵画コンクール」、俳句会、鴨川四季の歌（CD作製）、鴨川コンサート等の開催等の活動【1人】
- ・「鴨川・子供塾（仮称）」の設置について（流域小学校の生徒がフィールドワークなど行い鴨川について学ぶ）【1人】
- ・鴨川の浅瀬などを利用した子どもたちの水遊び場の設置【1人】
- ・鴨川の世界遺産登録を目指す【1人】
- ・葵祭との連携【1人】

7. ホームレス問題【2人】

- ・橋下の不法占拠住民（ホームレス）対策【2人】

2. 河川整備の基本理念と基本的考え方（案）

基本理念

我が国随一の歴史文化を有する京都の発展を支え、人と水との関わりを培ってきた鴨川。その鴨川を巡る課題に適切に対応し、世界に誇る鴨川をより良い姿で未来に継承していくため、次の3つの観点を踏まえ、河川整備に取り組む。

I 安心・安全の鴨川をめざして

壊滅的な洪水被害から地域を守るため、ハード・ソフト一体となった総合的治水対策を府市協調・府民協働のもと一層推進し、水害に強い地域社会の実現に向けた取り組みを展開する。

II 千年の都・京都の美しい鴨川をめざして

「山紫水明」に象徴される鴨川を中心とした京都の美しい自然・景観を守り育てるため、良好な水辺環境と沿川景観の保全・創出に努めるとともに、流域における健全な水循環の保全・再生の観点からの取り組みを進める。

III より一層多くの人々から親しまれる鴨川をめざして

平安遷都以来、京都のまちと人々の暮らしに密接に関わり続け、豊かな自然や優れた文化を育んできたなど鴨川固有の魅力を社会全体で共有し、より多くの人々から親しまれる川として育てていく

河川整備の基本的考え方(案)

鴨川のかかえる課題に対し、基本理念を踏まえ、河川整備の基本的考え方について、以下に挙げる。
(今回の委員会での審議は洪水による災害の発生の防止または軽減まで)

洪水による災害の発生の防止または軽減

- 当面の整備目標は、概ね30年に1回の洪水1000m³/sを安全に流下することを目標とする。
- 被災リスクの大きい七条大橋より下流の築堤区間から段階的に整備するものとする。
- 七条大橋より上流の堀込み区間では、溢水対策やソフト対策を併せて実施する。

鴨川府民会議やパブリックコメントにおいて、基本的考え方に対する意見聴取を行う

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

鴨川府民会議やパブリックコメントにおいて、課題などの意見聴取を行った上で、次回委員会において審議予定

河川環境の整備と保全

鴨川府民会議やパブリックコメントにおいて、課題などの意見聴取を行った上で、次回委員会において審議予定

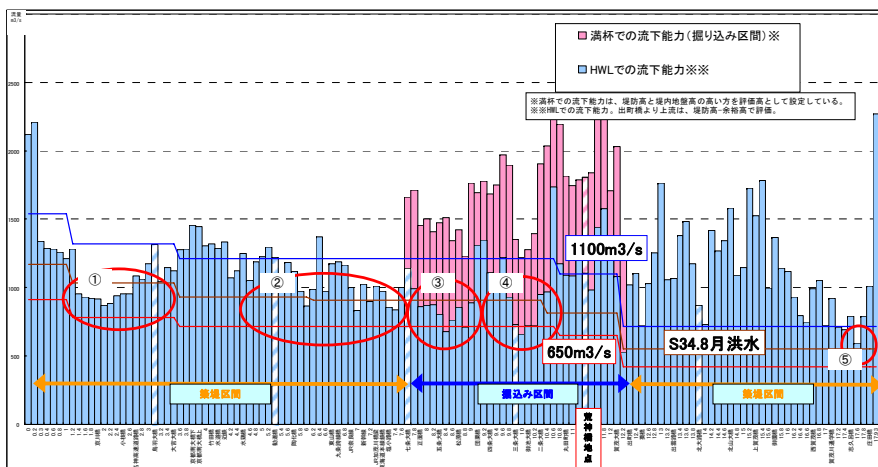
3. 治水の現状と課題 (治水の現状)

現況の流下能力

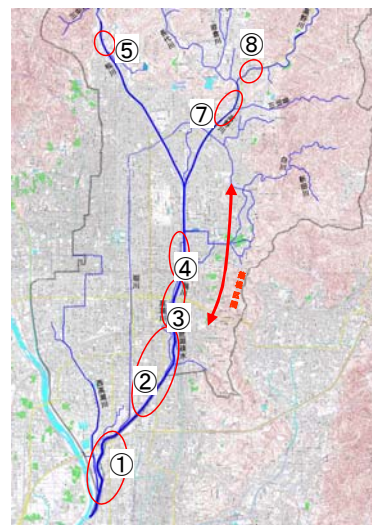
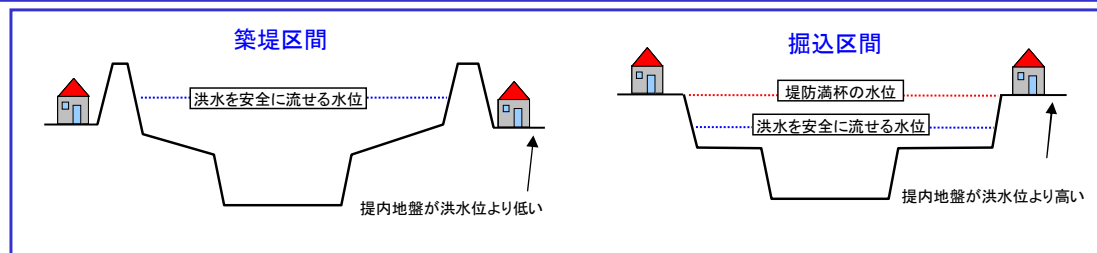
- 現在の疎通能力は、下流(七条大橋から下流)は築堤区間、橋梁は19橋(平均400m間隔)存在し、洪水時におけるこれらの影響を踏まえ、安全に流下させることのできる流量は、650m³/s(1/3)程度である。
- しかし、それを上回る715m³/s(推定流量)の洪水(S34洪水)も発生している。
- 特に流下能力が低い箇所は次のとおり。

	番号	区間	河道形態	概ねの能力 (HWL評価)	概ねの能力 (満流評価)
鴨川	①	京川橋付近	築堤	870m ³ /s、概ね1/5	
	②	近鉄橋梁~七条大橋		860m ³ /s、概ね1/5	
	③	七条大橋~団栗橋	堀込	680m ³ /s、概ね1/3	1230m ³ /s
	④	四条大橋~二条大橋		660m ³ /s、概ね1/3	1220m ³ /s
	⑤	柗野堰堤下流付近	築堤	590m ³ /s、概ね1/20	
高野川	⑥	高野川(松ヶ崎付近)	堀込	440m ³ /s、概ね1/10	740m ³ /s
	⑦	高野川(三宅橋付近)		180m ³ /s、概ね1/5	300m ³ /s

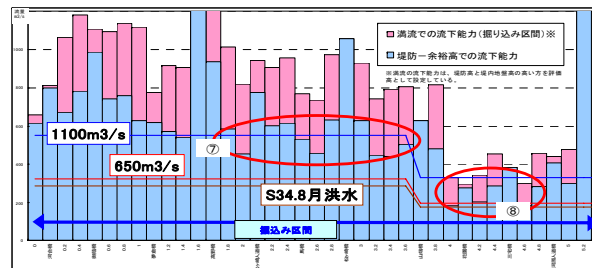
- 破堤など壊滅的被害の危険性の少ない堀込区間で、最大に流れる流量は1,100m³/s(荒神橋地点)程度。
- 下流の築堤区間はそれと比べると流下能力は低い状況である。



現況流下能力図(鴨川)



流下能力が低い区間の位置



現況流下能力図(高野川)



京川橋より下流



五条大橋より上流



三条大橋より下流

3. 治水の現状と課題（治水の課題）

近年の洪水の傾向

○近年、時間50mmを超えるような集中豪雨が多く発生している。そのため、東海豪雨など今までに経験したことのないような**大きな洪水がいつ発生してもおかしくない。**



平成16年台風23号による大手川の氾濫状況



一時間降雨量における年間延べ回数

出典 河川事業概要2007（国土交通省）



平成16年台風23号による浸水状況(宮津市)

水害に対する意識

○地下利用の拡大等、都市構造が水害に脆弱なものとなっている、また、70年以上大きな洪水が発生していないことから、**住民の水害に対する意識が低下している。**



三条大橋付近の状況 平成16年8月7日洪水時
提供：京都新聞社

ハード・ソフト対策

○河川改修（ハード対策）だけでは、あらゆる洪水に対応することが困難であり、ハード、ソフトが一体となった河川整備を計画的に進める必要がある。



鴨川沿川の防災カメラ

水害に対して脆弱な都市構造

○京都市街は高度に都市化しており、地下空間も存在し、**水害に対して脆弱。**



地下鉄博多駅入口より流入する氾濫水



御池地下駐車場

京都駅地下街



鴨川浸水想定区域図



鴨川・高野川の洪水予報

4.洪水による災害の発生防止または軽減（整備計画目標1/3）

長期的目標

○近年、全国では時間50mmを超えるような集中豪雨が多発していることから、鴨川においても、今まで経験したことのないような大きな洪水がいつ発生してもおかしくない現状にある。

年度	主な被害要因	全国での被害
平成16年	台風23号	死者95名、行方不明者3名 床上浸水 13,341棟、床下浸水 41,006棟
平成17年	台風14号	死者・行方不明者 41名 浸水家屋 32,581棟
平成18年	7月豪雨	死者・行方不明者 42名 浸水家屋 25,804棟
平成19年	台風4号	被災家屋 1500棟

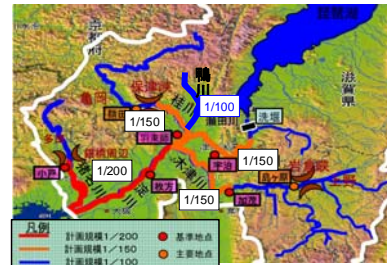
○鴨川は、沿川に人口、資産、都市中枢機能が集積し、さらに歴史的文化遺産が多く存在しており、河川、流域の重要度は高い。

河川の重要度と計画の規模

河川の重要度	計画の規模	河川の種類	備考
A級	200以上	1級河川の主要区間	淀川(A級) 桂川(B級)
B級	100~200		
C級	50~100	1級河川のその他の区間、2級河川、都市河川	鴨川
D級	10~50	一般河川	
E級	10以下		

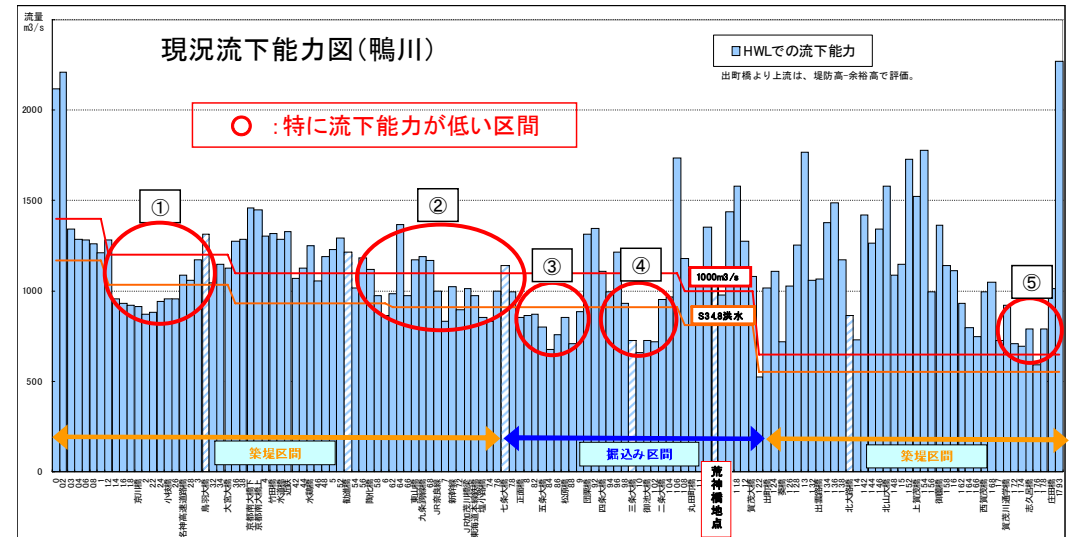
出典：河川砂防技術基準(案)同解説 計画編

○また、淀川河川整備基本方針との整合からも、鴨川では概ね100年に1度起こり得る洪水に対応できることを長期的には目指す。



現況の流下能力

鴨川で安全に流下させることのできる流量は、650m³/s(1/3確率)程度であり、鴨川の疎通能力はまだ不十分。



番号	区間	河道形態	概ねの能力 (HWL評価)
①	京川橋付近	築堤	870m ³ /s、概ね1/5
②	近鉄橋梁~七条大橋		860m ³ /s、概ね1/5
③	七条大橋~団栗橋	掘込	680m ³ /s、概ね1/3
④	四条大橋~二条大橋		660m ³ /s、概ね1/3
⑤	終野堰堤下流付近	築堤	590m ³ /s、概ね1/20

整備計画目標設定の考え方

○長期的な目標を実現するには多大な時間と費用を要するため、今後20~30年間で実現可能な目標を設定し、段階的に整備を進めることとする。

○整備目標の設定は、現況の流下能力、他河川の整備目標規模、近年の主要洪水規模、規模別河道掘削、規模別架替橋梁数、下流河川の整備目標等の観点から総合的に勘案。

○また施設整備だけでは、あらゆる洪水に対応することに限界があることから、地域と一体となったソフト対策のより一層の充実を図る。

4.洪水による災害の発生防止または軽減（整備計画目標2/3）

考察① 近年の主要洪水

鴨川における戦後最大流量は、昭和34年8月洪水であり、荒神橋地点の流量は約715m³/sと推定される。

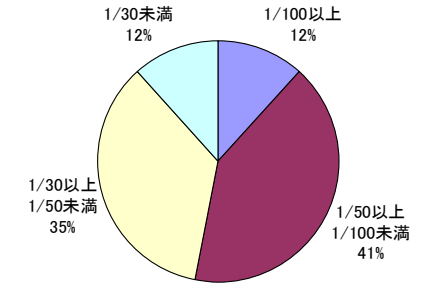
洪水発生年月	要因	雨量 (mm/3h)	流量 (m ³ /s)	モデルによる再現流量 (m ³ /s)	最高水位 (m)
S10.6	梅雨前線	96.0	約600	—	—
S28.9	台風13号	62.8	567	581	2.45
S34.8	台風7号	105.5	715	801	2.80
S47.9	台風20号	89.4	575	590	2.47
H11.6	梅雨前線	91.5	584	682	2.41
H16.10	台風23号	57.8	535	539	2.07



昭和34年8月洪水（三条大橋付近）

考察② 全国の河川整備状況

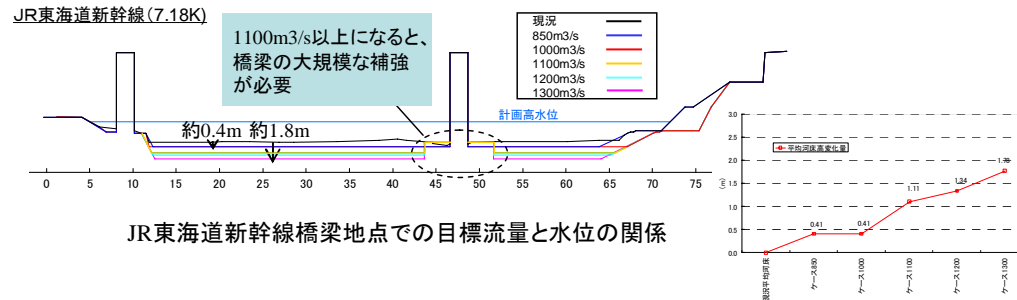
全国の政令指定都市を代表する河川（17河川）の整備計画規模は1/30以上が9割程度を占め、過半数において1/50以上となっている。



政令指定都市を代表する河川の整備計画規模 17例（平成19年7月調査）

考察③ 目標規模と河道掘削

目標規模を大きくすると、河床掘削が大きくなり、橋梁や景観に与える影響が大きい。



JR東海道新幹線橋梁地点での目標流量と水位の関係

考察④ 目標規模と架替橋梁数

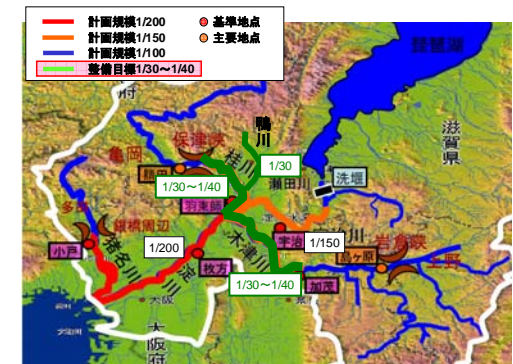
目標流量規模別の架替橋梁数から、荒神橋地点流量が1000m³/s（1/30規模相当）を超えると橋梁架替が多くなり、事業期間が多くなる。

計画流量別の架替橋梁数

目標流量 (m ³ /s)	橋梁の補強又は架替			備考
	補強	架替	対策無し	
850	20橋	なし	12橋	
1000(全区間)	20橋	1橋	11橋	
1100	20橋	5橋	7橋	
1200	20橋	7橋	5橋	
1300	20橋	8橋	4橋	

考察⑤ 下流河川の整備目標

下流本川である桂川（直轄管理）の整備目標が概ね1/30～1/40規模であり、上流側で大きな規模の改修はできない。



4.洪水による災害の発生防止または軽減（整備計画目標3/3）

整備計画目標

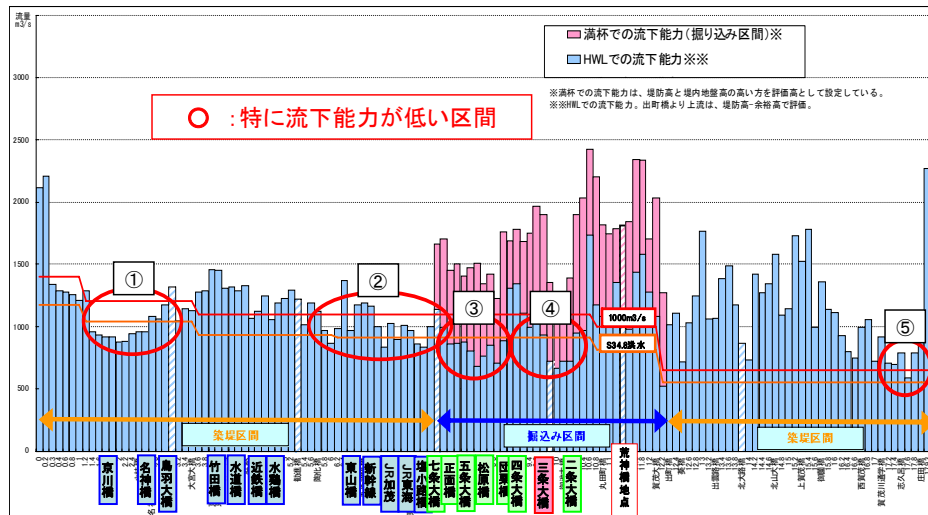
考察内容	整備目標に対する判断				
	850 m ³ /s	1000 m ³ /s	1100 m ³ /s	1200 m ³ /s	1300 m ³ /s
考察① 近年の主要洪水	○	○	○	○	○
考察② 全国の河川整備状況	△	○	○	○	○
考察③ 目標規模と河道掘削	○	○	△	△	△
考察④ 目標規模と橋梁架替	○	○	△	△	△
考察⑤ 下流河川の整備目標	○	○	×	×	×

⇒以上から、当面の整備目標は、概ね30年に1回の洪水1000m³/sを安全に流下することを目標とする。

凡例
○:望ましい
△:望ましくない
×:不可

整備の区間

1/30の改修が必要な区間は10.4kmと長く、また、橋梁架替1橋(三条大橋)、補強20橋が必要となり、今後30年間での完了は困難。



⇒被災リスクの大きい七条大橋より下流の築堤区間から段階的に整備するものとする。

七条大橋より上流の掘込み区間については、応急的な溢水対策を講ずる。(護岸が低い、高瀬川の取水箇所など溢水する可能性のある箇所や地下利用されている箇所については、特殊堤など応急的な対策を検討し、必要に応じて対応)

七条大橋より上流の掘込み区間については、下流築堤区間の整備完了までに検討を行うものとする。

また、構造令を満たしていない橋梁(河積阻害率が高い、桁下余裕高不足)については、管理者との協議を継続し、改築の検討を行う。

目標流量 (m ³ /s)	橋梁事業費(橋梁の補強又は架替)			改修延長 (km)	備考
	補強	架替	対策無し		
1000(全区間)	20橋	1橋	11橋	10.4	1/30
うち、下流部のみ	13橋	なし	19橋	7.6	1/30



護岸が低く浸水の恐れがある箇所



高瀬川の取水箇所

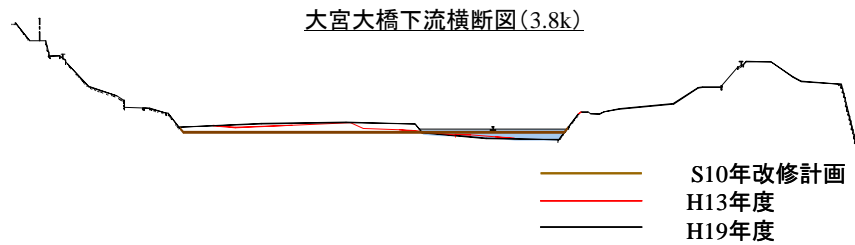
5.洪水による災害の発生防止または軽減（河川の維持（中州））

中州 ○中州に関しては、過去には治水上及び沿川住環境に配慮して定期的に河床整正を行い中州の発達を防いできたが、平成13年度以降は、生物環境の観点から定期的な対策は行っていない。（トビケラ対策として五条大橋から東山橋までの区間は、その後も毎年実施）

「生態系の良好な環境を生み出している」といった声もある反面、「景観上好ましくない」、「治水上不安を感じる」といった声もある。

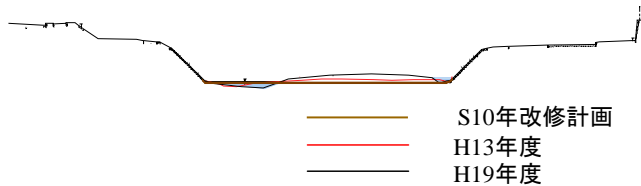
大宮大橋付近の砂州の状況

大宮大橋下流横断面図(3.8k)



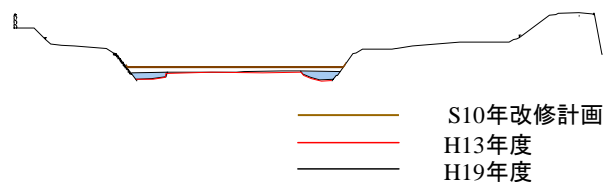
荒神橋付近の砂州の状況

荒神橋上流横断面図(11.4k)



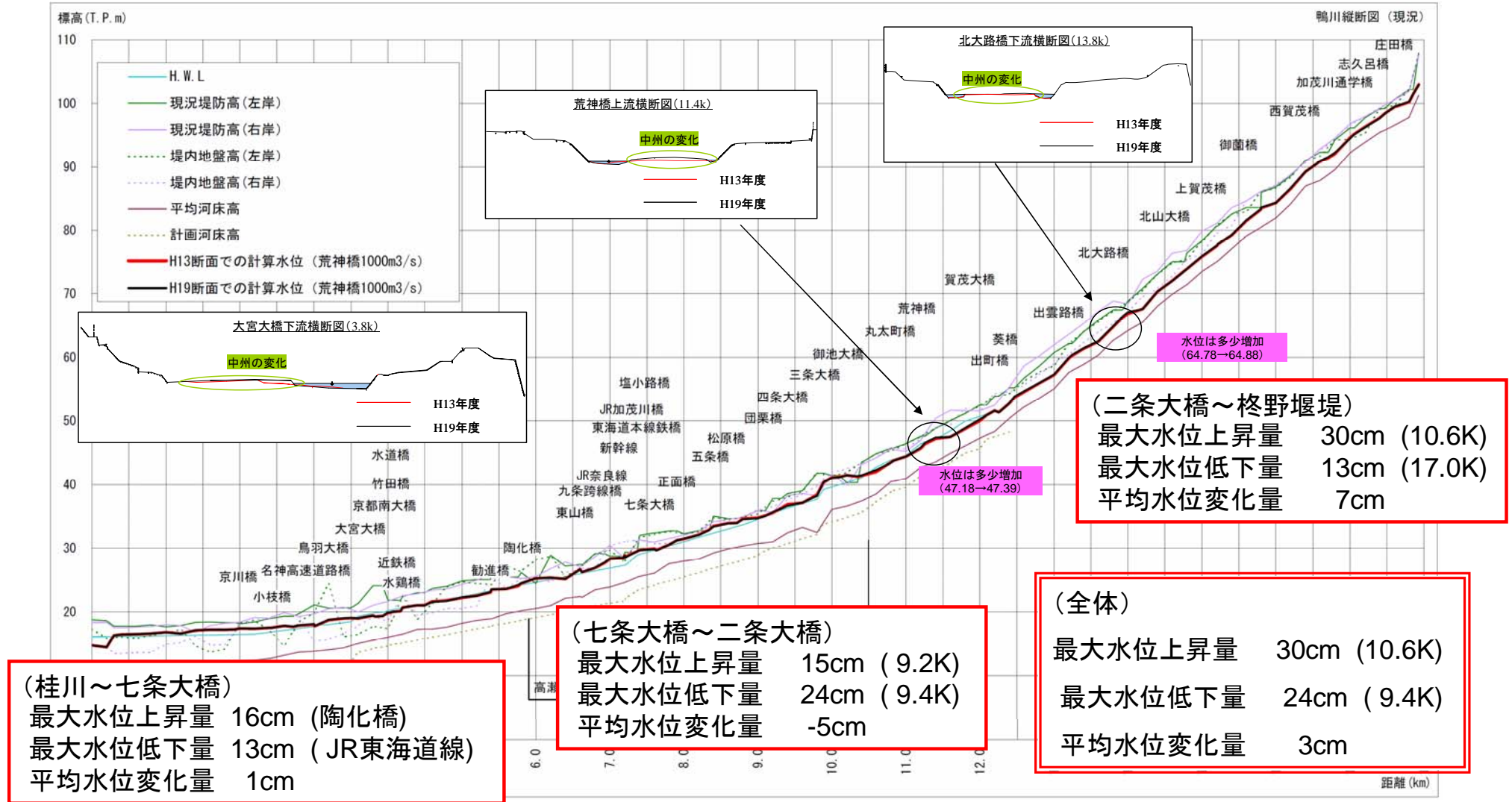
北大路橋付近の砂州の状況

北大路橋下流横断面図(13.8k)



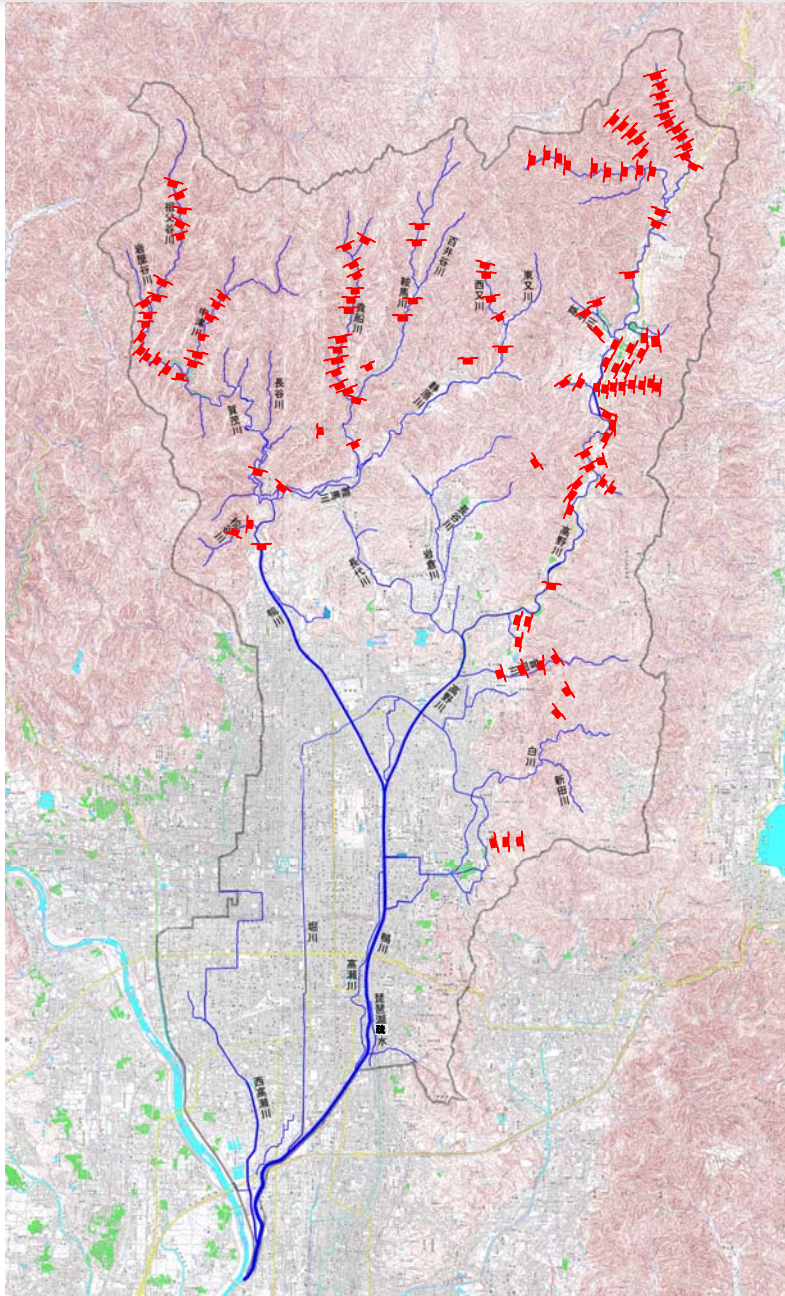
参考1) 中州の変化による水位への影響

H13年からH19年にかけての中州の変化による水位への影響をみるため、各年の横断形状をもとに荒神橋地点流量が1000m³/sの場合における水位を縦断方向に求めた。これにより、**中州の発達による部分的な水位上昇はあるものの、水位変化量は平均して3cm程度で、中州の変化による水位への影響は小さい。**



H19断面とH13断面での水位の比較 (荒神橋流量1000m³/s)

参考2) 鴨川流域における土砂生産（砂防堰堤等の整備状況）



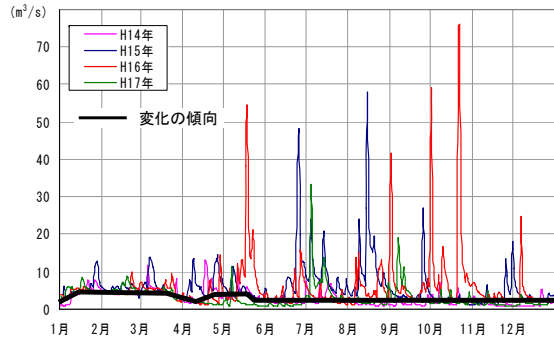
- 鴨川流域における砂防堰堤、床止め工の設置箇所を示す
- 治山ダムは含んでいない
- 今後、各堰堤における堆積土砂の状況等の把握に努め、鴨川流域での土砂生産の実態把握に努める

6. 利水の課題（利水）、環境の課題（水質）

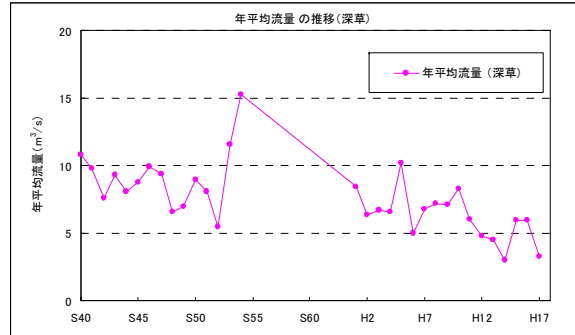
流況

○流況は、洪水時を除いて夏から秋に減少する傾向が見られる。

気候変動、市街化や下水道整備の進展など様々な要因により、**長期的には流量の減少傾向にある。**



年間流況図(深草)



平水流況図(深草)

出典) 流量年表(国土交通省河川局)

下水道の整備状況

○流域の下水道整備率は99%(京都市域99.1%、滋賀県域100%)を越えているが、**処理方式が合流式下水道であり、降雨の初期には下水管内にたまっていた汚濁物が雨水とともに放流されることが懸念される。**



合流式下水道からの雨天時放水(京都市上下水道局HPより)

京都市での雨水吐口の分布図(京都市上下水道局HPより)



7. 環境の課題（河川環境）

上流部

○~~上流部は、オオサンショウウオの生育も確認されており、豊かな自然環境が保持されている。~~

○一方、川沿いに資材置き場等が点在しており、**河川への影響が懸念される。**

中下流部

○中下流部は、植物150種、魚類27種、鳥類55種が確認され、大都市の中にあつては豊かな自然を有しており、下流部では、中流部と比べるとコイなどの大型魚類や礫中州を好むチドリ（鳥類）が多いなど若干の変化が見られる。

鴨川で確認された主な生物たち	
植物	セイタカヨシ・ツルヨシ・ セイヨウカラシナ ・ヤナギタデ・ミゾソバ・ セイタカアワダチソウ ・ オオカナダモ 等
魚類	アユ・オイカワ・カワヨシノボリ・カワムツ・ニゴイ・ ズナガニゴイ 等
鳥類	カイツブリ ・ユリカモメ・ヨシガモ・マガモ・ヒドリガモ・カルガモ・カワセミ・ イカルチドリ ・ イソシギ ・ コサメビタギ ・ハクセキレイ 等
爬虫類・両生類等	オオサンショウウオ ・アマガエル・シマヘビ・ クサガメ ・ ミシシッピアカミミガメ 等

特定種

外来種

特定種は、「京都府レッドデータブック」などを参考に設定。



オオサンショウウオ



オイカワ



イカルチドリ



アユ



河川敷に繁殖するヨシ群落



カワセミ

8. 環境の課題（景観）

○下流域で近年整備されている区間について、植栽などの配慮が必要



○新しい橋の橋脚について、コンクリート表面はきれいだが、味気がない



○クーラー室外機のカバーを統一が必要

○中流部などでは景観を阻害する要因（看板、ネオンサイン、ビル、老朽橋梁、室外機など）、納涼床の材質、構造、色彩の不統一が景観を阻害している。



ネオンサイン



ビル群

中心市街地の鴨川周辺景観



室外機

9. 環境の課題（河川空間利用）

利用者の問題

- 様々な迷惑行為が発生している。
 - 放置自転車(撤去件数: 237台 H20.5.31時点)
 - バイク等乗り入れ(指導件数: 244台 H20.5.31時点)
 - バーベキュー(指導件数: 34件 H20.5.31時点)
 - 危険な花火(指導件数: 2件 H20.5.31時点)
 - 落書き
 - 鳥の餌づけ
 - ホームレス(確認数: 107人 H19.11.29時点)
- また、利用者からは、照明の設置やバリアフリー整備を求める声もある。



不法投棄



放置自転車



ホームレス

○川側が街の表側になるような回廊整備ができないか

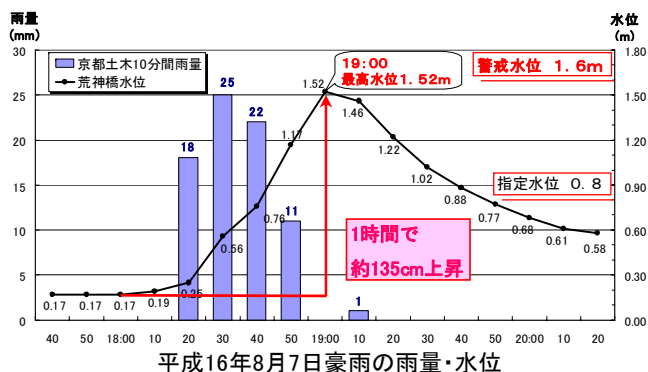
○まちづくりとセットにして鴨川を考えるべき、周辺でどういったまちづくりが現状で行われているかということをもう少し知りたい

○セアカゴケグモなどの害虫や不快虫に関する注意喚起も必要ではないか

○下流部において、人が集まる仕掛け(ジョギングロードの整備等)が必要ではないか

利用者の危険性

- 局地的な集中豪雨による急激な水位上昇も発生。**危険性の認識低下に加え、利用者の安全確保対策も課題。**



平成16年8月12日の新聞記事(京都新聞)



9. 環境の課題（河川空間利用）

下流区間の課題

- 五条より下流は、高水敷きの未整備区間もあり利用者数は激減する。
- そのため、不法占用、不法投棄、落書きなど大規模なものが見られる。
- ただし、一部では鴨川と民家が接する地域においては、川からの侵入など防犯上の観点から散策路の整備をして欲しくないとの声もある。



落書き

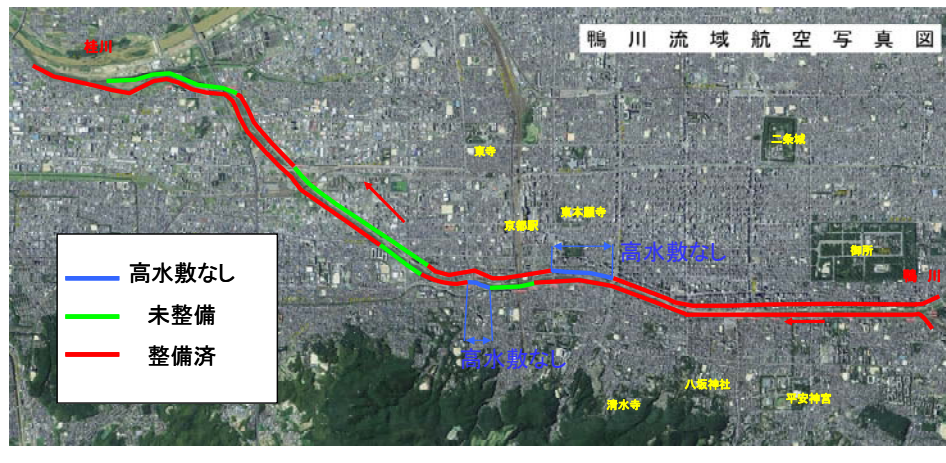
不法投棄



不法占有



不法耕作地



高水敷の整備状況

参考3) 鴨川下流域で進む沿川まちづくりのイメージ

○鴨川下流域の沿川土地利用、道路計画と京都市南部域のまちづくりのイメージを示す。これらの計画の中で、鴨川が中心となるように、河川空間の質的向上をめざし、河川整備を進めるものとする。

鴨川下流域沿川の土地利用

鴨川下流域沿川の土地利用は、桂川合流前の右岸側などの一部を除き、ほぼ全域で市街化されている。近年、特に市街化がすすんでいる地域であり、人口も増加傾向にある。

また、周辺には名神高速道路の京都南インター、国道1号線があり、京都の物流の要となっており、事業所なども多く存在している。

鴨川周辺の高速道路計画

近年、鴨川下流域周辺では、京都高速道路2号線(油小路線)が一部開通するなど、高速道路の整備が進められており、今後も延伸する計画がある。今後、この地域の人流、物流は、さらに活発になると予想される。



優れた設備機能を備えた活力発信施設
(パルスプラザ)

酒蔵を利用したお酒の博物館
(月桂冠大倉記念館)



濠川・宇治川派流を巡る十石舟

高度集積地域

「元氣な未来をひらく新京都・フロントシティの創造」を目指して、京都市における南部創造のまちづくりの先導地区として、様々な取組が進められている。

アクションプラン

1. 都市づくりの実践の核となる推進協議会の設立
2. 様々な都市活動を支える道路網の設備
3. 都市計画制限の見直し等による事業所等の立地誘導と機動的対応
4. 良質なプロジェクト等についての立地支援
5. 環境文化の創造
6. 高度集積地区のリーディングプロジェクト(中核地域の環境設備)
7. 地区内外とのアクセス手段の強化
8. 防災への配慮
9. グローバルな都市づくり
10. 都市づくりを盛り上げるソフト展開

中心市街地活性化基本計画策定地域

京都市では、平成13年に京都市(伏見地区)中心市街地活性化基本計画を策定し、おおむね10年間の期間を定めて、都市基盤設備、商業振興、居住環境、公共施設施設の総合的かつ体系的な設備を行い、活力と魅力ある中心市街地の形成に向けた取組を推進している。

将来ビジョン

- 住む人が便利なまち
- 訪れる人が楽しいまち
- 新しい京都を支えるまち

整備方針

- 都市機能の再編
- 商業地区の活性化と商業機能の強化
- 総合的な商業・観光プロモーション
- 観光資源の保全・活用とネットワーク形式
- 交通アクセスの改善と地域内のネットワークの整備
- 都市景観や防災・環境に配慮した安全で安心な都市空間の形成